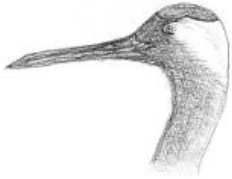


☆公害による健康被害を許すな!
☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会

〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19
内本町松屋ビル10 370号
TEL 06-6949-8120
FAX 06-6949-8121
E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp
URL http://oskougai.com/
発行責任者 金谷 邦夫
年間購読料一部2,000円(送料共)
郵便振替 00910-7-300387



「発作を起こしたら息を吐くことも吸うことも出来なくなる。終いにはチアノーゼも出て、これでお終いかと思う。ぜん息はきつちり医療機関にかかれば発作も起こさない病気になつてきている。でもお金がないために受診を控え、発作を起こしてしまふ。どうか医療費だけでも無料にして欲しい」「ぜん息の発作だけは困る。苦しんで、苦しんで本当に辛い。1人暮らし。わずかな年金で生活はしんどい。どうか救って欲しい」。1月25日午後、あおぞらプロジェクト大阪と大阪府との懇談は、未認

患者の実態は、国のホームページを見て

ぜん息患者の切実な願いに背を向ける大阪府

「発作を起こしたら息を吐くことも吸うことも出来なくなる。終いにはチアノーゼも出て、これでお終いかと思う。ぜん息はきつちり医療機関にかかれば発作も起こさない病気になつてきている。でもお金がないために受診を控え、発作を起こしてしまふ。どうか医療費だけでも無料にして欲しい」「ぜん息の発作だけは困る。苦しんで、苦しんで本当に辛い。1人暮らし。わずかな年金で生活はしんどい。どうか救って欲しい」。1月25日午後、あおぞらプロジェクト大阪と大阪府との懇談は、未認

定のぜん息患者のこんな切実な訴えから始まりました。しかし、大阪府の態度は、ぜん息患者の実態調査については「厚労省の『患者調査』や『人口動態調査』で把握され、国のホームページに公開されている」という木で鼻をくくったような回答。参加者からは「どこ

を向いて仕事をしているのか」と厳しい批判の声が寄せられました。また、疫学調査・そらプロジェクトの『報告』についても「あれは国がやった調査で、それを受けて府としてどうこうは考えていない」と答え、医療費助成については「制度の創設も原因の究明も国がやるべきこと」など、患者の切実な要求に背を向ける回答に終始しました。環境保全目標では、『新環境

目立つ関西広域連合任せの姿勢

大阪府の責任あいまいに

大阪から公害をなくす会は1月18日、藤永副会長をはじめ11名の参加のもとに、原発・自然エネルギー、防災、被害者救済など5項目について大阪府との懇談を行いました。

と述べ、また、福井の原発群での事故への対応についても国の検証結果や指針見直しを踏まえ、「関西広域連合の一員として対応する」と答えるなど、府の責任をあいまいにした、関西広域連合任せの姿勢が目立ちました。東日本大震災による震度3の地震で大きな被害の出た咲洲庁舎(旧WTC)については、防災拠点機能を備えた庁舎として

「23年度は1億円(計算費)、24年度から2年間で33億円を措置するが抜本的対策は未定」などあくまでも咲洲庁舎に固執する姿勢を示しました。参加者からは、抜本的な対策も立てられない咲洲庁舎からは即刻撤退すべき」と強い意見が出されました。

松井府政になってからの初めての懇談で府の態度が目されましたが、原発については中長期的には依存度を下げ、再生可能エネルギーの導入を拡大していくことが必要としながらも、「その具体化は「関西広域連合において考え方をまとめていく」

は使用しないとしながらも、「引き続き一般執務室として使用を継続する」、長周期振動対策と

寝屋川の「廃プラ」処理場周辺住民の健康被害問題については「地元市から要請がないので調査が必要とは考えていない」という答弁。参加者は、まず被害者の声を聞き、実態を調査するのが公衆衛生に責任を持つ府のとるべき姿勢と迫り、次回までに被害者に会って実態を聞くことを約束させました。